Faculty Development

自主創造 日本大学

日本大学 FD NEWSLETTER

SPRING 2013 VOL 03

Contents

FD推進センター長とワーキンググループリーダーが語る 2
日本大学におけるFD活動

連載 部科校における学習支援等の事例紹介 3
第2回 ［薬学部］薬学教育研究室にて国家試験合格をサポート

連載 授業改善のためのティーチングティップスの収集と情報提供
第3回 文理学部外国語教育センター（FLEC）による授業支援の試み

TOPICS 01 平成24年度 新任教員FDセミナー開催報告 4
TOPICS 02 各学部等における『日本大学FDガイドブック』活用方法の紹介

COVER PHOTO

法学部・財政学ゼミナールで報告を行う3年生。同ゼミでは，プレゼンテーションによる報告を毎回実施し，質疑応答を行う。（担当教員：法学部教授　川又 祐）

FD推進センター長とワーキンググループリーダーが語る

日本大学におけるFD活動

平成 24 年 12 月開催の全学ＦＤ委員会において，「ＦＤ推進センター中期計画」が策定されました。
これを受け，平成 24 年 12 月 21 日，ＦＤ推進センター長と３つのワーキンググループ（WG）のリーダーが集まり，平成 24 年度の活動報告を行うとともに，平成 25 年度の活動計画を踏まえた意見交換を行いました。

◎ＦＤ活動への学生参加をさらに強化

平成 24 年度の活動が計画通りに進められたことが，リーダー３名からそれぞれ報告されました。調査・分析WGリーダーの辻忠博教授は，他大学のＦＤ推進組織についての調査結果を踏まえ，「全学でＦＤ活動を推進する上で，キャンパスが分散していることが障壁だと考えていたが，他大学の事例を調査し，運営次第で物理的な距離はカバーできると分かった」と報告し，ＦＤ推進センターの合理的な組織運営が重要であることを示唆しました。

プログラムWGリーダーの今村佳樹教授は，活動を総括し，「教職員の教育意識は向上してきている。今後は，学生の意見を取り入れることが重要になる」と述べました。学生参画型ＦＤ活動については，活動の整備・強化が中期計画に盛り込まれています。今村教授は，「平成 24 年度に学生と教職員による授業に関する意見交換会を開いたが，参加した部科校が限られていた。次年度は全学に広げたい」と意欲を見せました。

これに関連し，教育情報マネジメントWGリーダーの森和紀教授が，『ＦＤガイドブック』2013 年度版では，冊子冒頭のセンター長のメッセージを，学生との対話形式で日本大学のＦＤ活動の在り方を伝える内容に改訂したと報告。さらに，「ウェブサイトやニューズレターで学生参画型の活動を積極的に取り上げたい」と，情報発信の面から支援する意向を伝えました。これらの計画について，牧村正治ＦＤ推進センター長は，「文理学部では学生主体のＦＤ活動を行っていると聞いている。WGの活動により，それが各部科校に広がることを期待する」と話しました。

◎人的・資金面での支援を期待

中期計画のもう一つの柱である「ファカルティ・ディベロッパー（ＦＤｅｒ）の在り方」については，辻教授から「長期計画に盛り込まれている『高等教育開発センター』（仮称）の設置推進に，教職員が積極的に携わることによって，本学にふさわしいＦＤｅｒが育成されていくのではないか」との意見が出されました。そして，教職員がＦＤ活動に一層取り組むためには，個人的なＦＤ活動を全学に情報発信して共有すること，教員と共に職員も十分に力を発揮することが重要であるとの指摘もありました。

この意見を受け，今村教授は「ＦＤ推進組織には専任教員（ＦＤｅｒ）が必要」と進言。文理学部でＦＤ活動の研究助成がなされていることに触れ，人的・資金面での支援を期待したいと伝えました。

また，森教授は，日本大学のＦＤ活動が転換期に入ったのではないかと指摘。「ＦＤ活動の目的は，当初，授業改善のみだったが，今では学生生活全般も対象になりつつある。各部科校で活発化した活動を整理し，運営体制を見直すことが，高等教育開発センター（仮称）やＦＤｅｒの在り方にもつながっていくのではないか」との考えを示しました。

牧村ＦＤ推進センター長は，３リーダーの提言を受け，次年度以降，全学的なＦＤ活動に反映させるよう検討することを宣言しました。

左から，教育情報マネジメント WG リーダー・森和紀教授（文理学部），プログラム WG リーダー・今村佳樹教授（歯学部），牧村正治 FD 推進センター長，調査・分析 WG リーダー・辻忠博教授（経済学部）。※役職は平成 24 年度現在

ＦＤ推進センター中期計画　検討期間：平成 25 年度～平成 27 年度

①日本大学におけるファカルティ・ディベロッパー（FDer）の在り方の検討

部科校において，授業改善，カリキュラム改善および組織整備を目的としたＦＤを企画・実施できるFDerの在り方を検討する。

主な検討事項として，FDerに求められるコンピテンシー・モデル＊1 の構築，研修体系およびプログラム開発などが挙げられる。

②学生参画型ＦＤ活動の整備・強化

学修の主体者である学生の視点を捉えたＦＤ活動を検討する。

主な検討事項として，学生による授業評価アンケートの効果的活用，ピア・サポーター＊2 および学生ＦＤスタッフの体系的かつ効果的な活用並びに支援体制の整備などが挙げられる。

＊1　特定の業務等において一定の成果につながる行動・思考特性を示す「コンピテンシー」（通常，６～８項目程度で表現されることが多い）を，人材育成の基準にしたもの。
＊2　「同じような立場の支援者」を意味し，特にここでは，学生による学生のための支援者をいう。例えば，ＴＡ（ティーチング・アシスタント），ＳＡ（スチューデント・アシスタント），オリター（オリエンテーション・コンダクター：特に新入生に対し，大学での学修や生活に円滑に順応できるよう，さまざまな方法で支援する人），およびボランティアなどを指す。

連載　部科校における学習支援等の事例紹介

第2回［薬学部］薬学教育研究室にて国家試験合格をサポート

平成24年３月，薬剤師養成の薬学教育が６年制となって初めての薬剤師国家試験が行われ，本学新卒の受験者の合格率は95.5％でした。この合格率を支えている機関の１つが，平成16年度に設置された薬学教育研究室です。薬剤師国家試験対策委員会と連携し，過去の出題傾向や受験生の弱点分野の分析を行うなど，試験対策を支援しています。

担当教員の1人，髙畠亨教授がサポート時に心掛けているのは，学習の具体的な目安を示すことです。単に「もっと勉強しなさい」と言うだけでは，学生は具体的な学習方法が分からないため，髙畠教授は，過去問を何年分解けばよいか，必要な自習時間はどれくらいか，合格した先輩たちの学習成果はどの程度か数値で示しながら伝えています。

研究室では，卒業延期者の支援にも力を入れています。「薬学部の学生は総じて志が高い。ところが，一度つまずいてしまうとなかなか立ち直れない場合がある。卒業延期者には，カウンセリングを丁寧に行い，つまずきの原因を探る。そして，次の国家試験までの学習指導はもちろんのこと，生活指導，心のケアも行う」と髙畠教授は説明します。

髙畠亨教授

ここ数年，学習支援に有効なのが電子メールです。直接は話せなくても，メールでなら本音を話せるという学生が多くいるからです。学生から相談されるのを待つのではなく，教員から学生に歩み寄り，支援することを心掛けているそうです。

そのほか，研究室では，化学と生物のリメディアル教育の推進，教育方法改善の研究などにも取り組んでいます。薬学部の教育を手法の面からのみでなく，心の面からも支援するのが大きな役目です。

連載　授業改善のための
ティーチングティップスの収集と情報提供

第3回　文理学部外国語教育センター（FLEC）による授業支援の試み

文理学部では，平成23年４月に外国語教育センター（ＦＬＥＣ―Foreign Language Education Center―）を開設しました。

ＦＬＥＣ 開設のねらいは，いわゆる一般外国語の修得について，授業以外の面でさまざまな学習支援を行うことです。各外国語の学習相談に始まり，留学希望者のための質問・相談への対応のほか，昼休みの英会話サロン，チャットルーム，留学生と日本人学生の交換の場でもあるランゲージ・エクスチェンジ，各種語学検定試験のための対策講座などなど，さまざまな支援活動を通して，学生の外国語学習をバックアップしています。

ＦＬＥＣは教室棟である３号館の２階という，学生にとって利用しやすい場所にあります。ＦＬＥＣ内には，自習用のスペースやパソコン，iPad® なども備えられ，図書・雑誌資料の閲覧とともに，学生はそれらを自由に利用できます。

平成25年度以降も，語学学習を促すための小冊子（ポートフォリオ）を配布するなど，新たな試みを推し進めていきます。

（文理学部教授　椎名正博）

英会話サロンの様子。先生や留学生と，外国語でのコミュニケーションが楽しめる。

TOPICS //// 平成24年度 新任教員FDセミナー開催報告 01

平成 24 年 12 月 22 日，日本大学会館において，平成 23 年度および平成 24 年度に新規採用された助教以上の専任教員を対象とした「新任教員ＦＤセミナー」が開催されました。

新任教員ＦＤセミナーは，３つのポリシー（ＤＰ・ＣＰ・ＡＰ*）の下で自らの専門を通してどのような学生を育てたいかについて，部科校等の教育目標と関連付けながら自らの活動を振り返ることにより，次年度に向けての新たな教育活動計画について示唆を得ることを目的として開催されました。

講師の東京農工大学大学教育センター・加藤由香里准教授

講師に東京農工大学大学教育センターの加藤由香里准教授を迎え，前半は，ＦＤの定義，ＦＤが求められている背景についての解説，さらに，ＦＤ活動の具体例として，東京農工大学で行われている授業アンケートの活用方法や，総合情報メディアセンターと連携したＦＤ研修などについての紹介をしていただきました。

後半は，「ポートフォリオ・アプローチによる教育活動の振り返りと改善」と題し，ティーチング・ポートフォリオの紹介ならびにミニワークショップが行われました。

参加者は加藤准教授の説明に従いながら，自身の担当科目についてワークシートに記入し，近くの参加者とペアとなり意見交換をしました。

134人の教員が参加。ペアワークでは活発な意見交換が行われ，会場は盛り上がった。

教育改善のための内省化を促すツールとして，ティーチング・ポートフォリオがどのように役立つのかを体験する機会となりました。

*ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシー

TOPICS //// 各学部等における『日本大学FDガイドブック』活用方法の紹介 02

平成 25 年４月に『日本大学 FD ガイドブック2013』が発行されました。前年度版が各学部等でどのように活用されたのか，その事例を紹介します。

『Learning Guide』

- 新入生ガイダンスで配布し，特に「必要な学修時間」を中心に説明した。
- 目的意識を持って自ら学ぶ姿勢を有する学生を養成するため，必要な箇所を適宜抜粋して解説し，リテラシー科目やゼミの教材として活用した。
- インセンティブの授業の最終回に課題として，自らの数か月間の学修状況を『Learning Guide』の内容と照らし合わせ，不十分に思ったところをレポートにまとめさせた。

『Teaching Guide』

- 各教員が「教育と授業の在り方」を再認識するためＦＤ研究会で活用した。
- カリキュラム改訂や授業15週実施への対応を議論するタイミングと重なり，各授業科目の実施における基本事項を確認するための資料とした。
- 配布するだけでなく教員から意見を求め，学部としての活用を工夫した。

本書はＦＤ推進センターのウェブサイトでも公開されています。ぜひ，有効にご活用ください。

「基礎研究（基礎ゼミ）」で本書を用い，スタディ・スキルズを教授するのも，推奨の活用法。

日本大学 FD NEWSLETTER 第3号
発　行　日: 平成25(2013)年4月1日〔年2回(4月,9月)発行〕
発　行　者: 日本大学FD推進センター センター長 牧村正治
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24　電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315
e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp　http://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/effort/fd-center/
所 管 部 署: 日本大学 本部 学務部教育推進課
企画・編集: 日本大学全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

「日本大学 FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら，学務部教育推進課(adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp)へお寄せください。

本ニューズレターに掲載した文章，写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright(C)Nihon University 2013 All Rights Reserved.

自主創造 日本大学